

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立板野高等学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		学校関係者の意見		
	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度			
生徒指導の充実	① 承認することから始まる生徒指導	①-1 叱るところからではなく、承認するところから始める生徒指導	①-1 生徒の悩みや相談を丁寧に聞き、生徒と一緒に考え、解決していく生徒指導を展開した。	総合評価 (評定) B (所見) 今未来手帳の使用状況は個人差・クラス差が見られるが、学習サイクルを身に付けさせるためには有効だった。 評価指数関連については、概ね達成できた。職員と生徒の心の交流を目指すなか、校門で挨拶を交わしたり、声を掛けることを全職員で取り組んだ結果、昨年度より挨拶や服装・頭髪等の基本的な生活習慣は改善されてきた。 大きな事故はなかったが交通ルールを遵守する姿勢を身につけさせていく。 生徒間の人間関係のトラブルやいじめ、非行等の問題解決においては、担任だけではなく、学年団、養護教諭、部活動顧問など全職員がそれぞれの立場から一致団結し、「チーム板高」として組織的に解決に当たることができた。さらに、スクールカウンセラーや中学校、地域、警察・教育委員会等の外部機関の協力が得られたことにより、問題が深刻化する前に解決できたこともあった。 年間を通じた生活指導、学習指導により、基本的な生活習慣の確立を図り、自主自立の精神の育成に取り組んだ。 学習記録やスケジュール管理を近未来手帳に記入する習慣と継続的な記録・蓄積を図ることを推奨した。 挨拶や身だしなみの指導を徹底し、学校生活全般が規律あるものになった。 美しい環境づくりを目指し、定期的なゴミの分別の習慣、清掃美化の徹底を図ることで清掃美化意識を高めることができた。	① 多方面にわたり、生徒のための取組が実態に即した形で行われています。丁寧に細やかに、全教職員が具体的に取り組むことができています。 ② メモをとること及び1日の生活の振り返りをする習慣を身に付けさせることは、日々の生活の改善と将来の社会生活の充実・発展に向けた有効な方策と思う。 ③-1 外で板校生から挨拶を受け、感心している。 ③-2 下校時、無灯で走っている生徒を何人か見かけたことがあるので注意を促して欲しい。 ④ いじめ・暴力行為0件ということから、子どもたちが大切にされていると感じた。	○ 朝のあいさつ運動と合わせ、自転車の交通安全、歩行者の交通マナーを啓発する活動を今後も展開していく。 ○ 頭髪指導については、引き続き生徒・保護者・教員が情報を共有し、連絡を綿密に行う。流行の髪型の指導について、近隣校と連携をとりながら指導を行っていく。 ○ 校外でも挨拶できる習慣をつけていく。 ○ あらゆる場面を利用し、交通安全・マナーの再認識を図る。 ○ 学期毎に、生徒アンケートを実施し、いじめなどの重大な案件を早期発見していく。
		①-2 生徒の可能性を信じ、成長を促す指導 今未来手帳・フォーサイト手帳の有効活用	①-2 一人一人の生徒の長所を伸ばし、成長を促す生徒指導を共通理解のもと取り組んだ。			
		② 頭髪服装指導を定期的実施 再々指導3件以下	② 毎月1回、各学年団で頭髪服装指導を行い、同じ週に再検査・再々検査も徹底して行っている。再々指導2件。			
		③-1 あいさつ運動によるあいさつの徹底 あいさつ運動毎日(平常授業時)実施	③-1 生徒会を中心に、15名程度の生徒が毎週金曜日、あいさつ運動を実施。			
		③-2 交通ルールやマナーを守る。 自転車の警告数月3件以下	③-2 歩道橋を使わず、自転車専用横断道路を渡るなど、交通ルールやマナーについては不十分なところが見られたので交通マナーについて指導。自転車の警告数月0.6件。			
	② 生徒指導は全員で取り組む	④ 日々のコミュニケーションをとおして、いじめや暴力行為をなくす。いじめ・暴力行為0件	④ 人間関係を構築することが苦手な生徒もおり、トラブルになることもあったが、いじめや暴力行為は0件であった。			
	③ 基本的な生活習慣を身につけ、何事にも積極的に取り組む生徒の育成	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
	④ 日々のコミュニケーションの充実	① 授業、部活動等学校生活すべての場面で生活指導	①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で定期的に頭髪服装指導を行い、事後指導も徹底して行う。	①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で月1回、頭髪服装指導を行い、事後指導もきめ細かく、徹底して行った。	① 学校評価では、教員の約8割が現状の生徒の服装・頭髪は不十分であると認識している。「頭髪・服装の乱れは非行の第一歩と捉え、ルールを守るといふ規範意識を高める指導の一環として徹底して行った。」と記載されているが生徒の方は教員の指導についてなぜいけないかを理解していないと思われる。就職や進学に関わることなので改善をしないといけないと思う。 ①-4 挨拶や身だしなみの指導がよくなってきています。	○ 基本的な生活習慣や定期的な頭髪服装指導は、進路実現の根拠をなすものであることを生徒に理解させ、学年団を中心に学校全体で取り組んでいく。 ○ 普段の授業から期日を守らせる習慣をつけさせていく。 ○ SHS上で学習記録やスケジュール管理をさせることで記録・蓄積を図ることも検討していく。 ○ すべての授業で挨拶が始まり、挨拶で終わる習慣をつけさせていく。
			①-2 授業の受け方(態度や課題提出等)などの入門講座を入学時に実施する。社会で通じる「聞く」「話す」等の態度や期日を守る態度を授業中に指導する。	①-2 授業態度や課題提出については入学時や最初の授業時に実施し、集会や授業の「聞く」「話す」等の態度や提出物の期日を守る姿勢を指導した。		
			①-3 今未来手帳・フォーサイト手帳の利用法について1、2年でオリエンテーションを行う。学年集会等に持参させ、メモをとる習慣を身につけさせる。また日々の生活記録として手帳を使用し、家庭学習の定着を図る。	①-3 今未来手帳・フォーサイト手帳の利用法について1、2年でオリエンテーションを行った。総合的な探究の時間の記録や学年集会等に持参させ、メモをとる習慣を身につけさせるように取り組んだ。		
①-4 すべての授業で挨拶や身だしなみを指導する。特に、体育の授業で集団行動の指導を徹底し、学校生活全般を規律あるものにする。			①-4 授業では身だしなみを確認して始めるようにした。1年次の体育の授業では、集団行動の指導を徹底することにより、基本的な生活習慣を身につけさせ、我慢すること、規律の重要性を指導した。			
①-5 定期的にゴミの分別や清掃状況のチェックを行い、清掃美化の徹底と校内環境の整備を行い、清掃美化意識を高める。美化チェックの達成率70%以上。			①-5 定期的にゴミの分別や清掃状況のチェック表を提出させるなど、校内環境の整備を行い、清掃美化活動に清掃時間に取り組んでいる。美化チェックの達成率80%。			

	<p>② 保護者、地域等との連絡強化</p> <p>③ 交通安全指導の実施</p> <p>④ 生徒の心身の健康</p> <p>⑤ 防災教育の推進</p>	<p>①-6 外部機関と連携をして、携帯電話安全教室及び薬物乱用防止教室を実施して、SNS利用マナーと薬物の危険性について考える機会をつくる。</p> <p>② 遅刻カード(授業遅刻も含む)への記入を徹底し、家庭への連絡を速やかにする。遅刻回数が多い生徒は、保護者と学年主任・管理職等との面談を実施する。</p> <p>③ 登校時、校門前での交通指導を行う。</p> <p>④ 心の悩みが聞ける雰囲気をつくる。睡眠や食生活の大切さを、養護教諭や関係する教員、教育相談課員等で連絡を取りながら教える。</p> <p>⑤ 防災クラブを中心に、災害に向き合う知識を身に付け、日常的に命を守る手順を考えるられる生徒の育成に努める。防災士2名合格</p>	<p>①-6 外部機関と連携して、携帯電話安全教室(1年)及び薬物乱用防止教室(3年)を2・3学期に実施した。</p> <p>② 遅刻カードや入室許可証の提出を徹底させ、管理職が捺印時に指導。担任から家庭への連絡を速やかにし、信頼関係を築いている。遅刻回数が多い生徒は、三者面談、四者面談で指導した。</p> <p>③ 登校時は2名の教員で、校門前での自転車と車の接触による事故がないよう、交通指導を行った。</p> <p>④ 生徒の悩みについては、関係するHR担任や教育相談課員、スクールカウンセラーを交えて取り組んでいる。スクールカウンセラーへの相談件数 63件。</p> <p>⑤ 防災士1名合格。再受験の生徒は、防災士教本や防災士試験対策ハンドブック、履修確認レポート、これまでの練習問題等を再度見直し、合格を目指している。</p>	<p>携帯電話安全教室、薬物乱用防止教室、SNS利用マナー教室を今後も定期的に実施していく。</p> <p>遅刻カードの記入の徹底、家庭への連絡が確実にできた。遅刻回数が多い生徒は、保護者との面談を段階的に実施した。</p> <p>登校時での職員による登校指導は、職員と生徒の心の交流になっている。</p> <p>一人一人の生徒を真に理解し、その健全な成長を援助するように努めた。</p> <p>西部消防組合の指導による避難訓練を12月に実施したが、訓練の目的や意義について説明し、真剣に取り組ませる。</p>	<p>①-6 人間関係のトラブルにつながるSNS利用マナーについて考える機会を作ることは大切だと思います。</p> <p>② 遅刻生徒への指導が徹底できています。</p> <p>③ 朝はお互い急いでいるので交通事故には十分気をつけてほしい。</p> <p>④ 心の悩みを気軽に相談できる体制が整っていると思います。</p> <p>⑤ 防災士の育成に今後も取り組んで欲しい。</p>	<p>○ SNS利用マナーについては重視しており、定期的に実施していく。</p> <p>○ 遅刻カード(授業遅刻も含む)への記入や、家庭への連絡を徹底していく。</p> <p>○ 校門前は自転車と車の接触がよく見られるので今後注意していく。</p> <p>○ スクールカウンセラーとの相談を密にし、生徒の心の悩みの解消に取り組んでいく。</p> <p>○ 防災士試験の受験者増と合格率がアップを目指す。</p>
<p>主体的、対話的で深い学びが得られる工夫された授業</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>① 新学習指導要領の実施</p> <p>② 習熟度別授業や少人数制授業により多様な進路希望に対応</p> <p>③ 生徒の興味・関心・適性に合った科目を選択できる単位制教育課程</p> <p>④ 高い志と明確な目的意識を持って自ら学ぶ意欲と行動力を育成</p> <p>⑤ 早期に勤労観や職業観の育成を図る</p> <p>⑥ 文学に親しみ、心豊かな人間を育てる「朝の読書」を実施</p> <p>⑦ 情報通信技術の活用能力を高め、社会に貢献しようとする公共心を育成</p>	<p>評価指標</p> <p>① 教育課程検討委員会を年3回実施し、教育課程や観点別学習評価について研究する。</p> <p>②-1 授業内容の研究(教科会・公開授業) 各学期1回</p> <p>②-2 年間学習指導計画を見直し、授業計画時数や学習達成目標を明確化し、分かりやすい授業(80%以上)を展開する。</p> <p>③ 授業評価アンケートで生徒の満足度 80%以上</p> <p>④ 3学年で1回、1.2学年で2回の進路ガイダンスを実施</p> <p>⑤ 1学年で、2月にインターンシップを実施する。</p> <p>⑥ 朝のSHR前の10分間実施 生徒にとって有意義な時間になっている。</p> <p>⑦ タブレットの持ち帰りを安全・安心に行える環境づくり端末の設定 100%</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 多様な生徒の進路に対応できるように選択科目をもうけている。観点別学習評価について、校内で共通理解を図り、実施した。生徒・保護者へ観点別学習評価の仕方について説明し、理解を得られるように努めた。</p> <p>②-1 フレッシュ研修や県教委訪問、進化する教室イノベーション事業における研究授業・公開授業を1・2学期実施している。研究授業は10回実施。</p> <p>②-2 新教育課程により、年間学習指導計画を刷新。習熟度別授業や少人数授業など、単位制を生かした教育課程が充実し、分かりやすい授業95.1%。</p> <p>③ 11月に授業評価アンケートを実施。授業満足度90.5%。</p> <p>④ 6月に全学年、12月・3月に1・2年を対象に進路ガイダンスを実施した。</p> <p>⑤ 1年生が2月に2日間、39の事業所に分かれてインターンシップを実施した。</p> <p>⑥ 朝のSHR前に10分間の朝読を予定通り実施した。</p> <p>⑦ 生徒端末の持ち帰りをいつでもできる環境が整えるとともに、生徒の情報スキルを高めている。端末の設定90%</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>各教科主任から意見を聞き、来年度に向けてよりよい評価になるよう改善に取り組んだ。研究授業は10回実施。</p> <p>習熟度別授業や少人数授業など、単位制を生かした教育課程が充実していた。</p> <p>満足している生徒の割合は高いので今後も継続できるようにしていく。</p> <p>各学年、予定通り進路ガイダンスを実施。</p> <p>インターンシップに肯定的な意見が教員で91.5%、生徒で76.0%</p> <p>読書が学校教育を果たす役割の重要性を考え、実施しているが、肯定的な意見が教員で57.1%、生徒で41.0%であり、改善点について、対策を検討していくことが必要。</p> <p>日々の授業によって生徒のスキルを高めることができたが、故障している端末も見られた。</p>	<p>① 検討委員会の情報を校内で共通理解するとともに、生徒の指導に生かせるように工夫していた。</p> <p>②-1 研究授業の目標設定に生徒の実態が十分に反映されている。</p> <p>②-2 分かりやすい授業の割合が高く、少人数授業の特性が生かされている。</p> <p>③ 高い数値目標であるが、おおそ達成できている。</p> <p>④ 進路ガイダンスが生徒の進路選択に十分反映できている。</p> <p>⑤ インターンシップでは将来を見据えた高校生活のよき指針となっていると思います。</p> <p>⑥ 朝の読書は、生徒自らという気持ちを持ってほしい。</p> <p>⑦ タブレットの持ち帰りがいつでもできる体制づくりは重要だと思う。</p>	<p>○ 観点別評価について、各教科主任から意見を聞き、来年度に向けてよりよい評価になるよう改善に取り組んでいる。</p> <p>○ 今後も習熟度授業の在り方について検討していく。</p> <p>○ 満足度の低い教科の授業の内容の工夫を考える。</p> <p>○ 一人一人の進路希望に沿ったガイダンスになるように検討していく。</p> <p>○ 事前に調べ学習や心構えなど職業観の育成を図っていく。</p> <p>○ 落ち着いた気持ちで授業に臨むことができるなど、読書の学校教育に果たす役割の重要性を訴え、肯定的な意見が増加するよう、改善点や方策について検討していく。</p> <p>○ タブレットの持ち帰りを安全・安心に行える環境づくりを構築していく。</p>

(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
① 学び直し教材「smile」の活用	① 1学年の国数英で学び直し教材を活用し、基礎基本事項の徹底をはかる。	① 1学年は学び直し教材「smile」の活用し、英数国の基礎基本を学び直しをした。	1年生はこれまでの学習習慣や習熟度に差があるため、年度初めの授業で使用している「スマイル」は、生徒の学び直しと実態把握に効果があった。	① 1学年で学び直し教材の活用による基礎基本の徹底を図る継続的な取り組みを期待します。	○ 教材「smile」の有効活用について各教科で再考してもらおう。
② 授業評価結果の活用	② 生徒を対象に授業評価アンケートを年1～2回実施する。教科会を開き、参加意欲の低い原因を探り改善に努める。	② 生徒を対象に授業評価アンケートを11月に実施した。		② 授業改善で生徒を対象にした授業評価アンケートを実施し、それを基に方策を考えられたのは、とても素晴らしいと思います。	○ 授業評価アンケート結果をもとに、反省点や今後の課題について協議を深め、今後の授業展開の参考にしていく。
③ 進路相談の機会の増加	③ 設定された面談期間以外にも、放課後等にも進路の個別相談に応じる。	③ 進路保障のため、放課後を中心に、学年団・進路課で個別相談に応じ、生徒一人ひとりの進路実現に取り組んだ。	就職・進学共に必要に応じて個別の進路面談を実施した。		
④ 進路別の補習授業、意欲ある生徒のための放課後個別学習指導を実施	④ 補習の出席率6割以上を目指す。	④ 補習を希望制にしたため、各講座とも出席率は8割を超えていた。		④ 補習希望者は目標をもって頑張っていると思います。	○ 補習の効果がどのように現れているか検討する。
⑤ 生徒、保護者の希望進路の実現	⑤ 学校行事や面談で直接、または進路だより『ONE'S WAY』や『進路の葉』などを通じて、進路に関する情報を伝える。PTAの行事として、県内外の大学・専門学校・企業等を訪問して研修を行い、家庭教育の充実に努める。奨学金の案内や申し込みについて丁寧に説明をする。	⑤ 進路だより『ONE'S WAY』は、HPにも掲載中。『進路の葉』などを通じて、進路に関する情報を伝えている。PTAの行事として、株式会社大真空徳島事業所、専門学校徳島穴吹カレッジを訪問して研修を行い、家庭教育の充実に努めた。奨学金の案内や申し込みについて丁寧に説明し手続きを終えた。	入試環境を取り巻く動きも厳しくなっていることから、早期から目的意識高揚を図るためのキャリア教育と、基礎学力充実のための早期・放課後補習に主体的・意欲的に向き合うよう促した。	⑤ 進路だより『ONE'S WAY』をホームページ上で公開してもらうことで、課題テストの範囲や日程をいつでも確認しやすくなった。	○ 進路だより『ONE'S WAY』や『進路の葉』などを通じて、進路に関する情報をホームページ上で伝えていく。
⑥ 「キャリアパスポート」の活用	⑥ 様々な体験活動を記録し蓄積することにより、キャリア教育の充実に図る。	⑥ 高校版キャリアパスポートの様式を用いて、様々な体験活動を記録し、蓄積した。	キャリアパスポートを記入し、これまでの取組を振り返ることにより、新たな学習や生活への意欲につながった。	⑥ 将来の生き方を考えたりするキャリア教育は重要だと思えます。	○ 生徒端末を活用し、eポートフォリオで記録するように取り組んでいきたい。
⑦ GIGAスクール構想の推進による新たな学びの展開	⑦ 一人一台のタブレットを活用した授業公開週間を設け、授業研究ならびに教員のスキルアップを目指す。	⑦ GIGA推進週間(6月)では、公開授業をさせていただき先生方の一覧表を配布し、自由に参観してもらい、自らのスキルアップにつなげてもらった。GIGA推進月間(11月)には、教員相互の授業参観をする授業公開週間を設け、授業参観シートの提出をお願いした。	「ICT活用による学習活動は、効果的に行われている」教員94.3%。	⑦ 生徒間でICTスキルの格差があると思われるが、活用し続けることで差が縮まっていくと思う。	○ ICTの機器の不具合も多いため整備を図っていきたい。
⑧ 校外の講座等の参加、各種資格取得	⑧ 数検・英検・漢検などの資格試験について、可能な限り校内で実施し、受験者数・取得者数を増加させる。更に学修認定を行うことで、生徒の動機付けを一層高める。	⑧ 英検は本年度準2級を6名が受験し2名が合格、3級を16名が受験し8名が合格した。漢検、情報検定、危険物取り扱い者試験等生徒のニーズに応じて実施している。	検定については、情報処理、文書デザイン、日本語ワープロ検定にも多くの生徒がチャレンジした。	⑧ いろんな検定に、積極的にチャレンジしていくことはいいことだと思うので、今後も続けて欲しい。	○ 資格を持っていることの利点を説明し、検定・資格試験等の受験を促し、進路選択の幅を広げていく。
⑨ 学習時間の確保	⑨ 学校行事の精選・見直しにより授業時間の増加を目指す。また、チャレンジタイム(テスト前の自主学習時間)や週末課題の実施等で学習時間を確保する。	⑨ 考査発表後、6限で終了する日は「チャレンジタイム」を設定し、学習時間の確保に充てた。また、週末課題を与え、家庭学習の充実に図った。課題等未提出者については、提出状況のチェックを確実にし、HR担任との連携を密にして提出率をアップさせた。	テスト前の自主学習時間を有効に活用させた。週末課題は「全員がする」をモットーに学年でチェック体制を強化した。	⑨ テスト前の自主学習時間や週末課題の実施等で学習時間を確保できるように工夫されています。	○ テスト前の自主学習時間より、より有効な学習指導ができないか考察していく。
⑩ 図書の貸し出しの推進	⑩ 入学時のオリエンテーションや読書マラソン等で、読書を促す。「図書館便り」を発行し、本の紹介をする。一人当たりの貸出数6冊以上。	⑩ 入学時のオリエンテーションおよび国語科と協力した図書館オリエンテーションで図書館の利用の仕方を説明した。「図書館便り」は8月を除き毎月発行し、本の紹介を行った。一人当たりの貸出数3.5冊。	図書館の開館時間の変更により貸出数は減少した。「図書館便り」は毎月、「エシカル通信」は学期に一度発行した。今年度からホームページにもアップした。	⑩⑪ 学校で発行している文書についてHPでいつでも見れるのは安心感があります。	○ 貸出数が増加するような方策について検討していく。学校で配布している「図書館便り」、「保健便り」、「エシカル通信」等をHPにアップしていく。
⑪ 「エシカル消費」の発信普及	⑪ エシカルクラブを中心に校内外での啓発活動を行う。エシカル通信を発行する。	⑪ 本年度は校外での啓発活動はほとんど実施できていないが、身近なところでエシカルを学ぶことができるということを再認識できた。また、エシカル通信を発行し、本校の取組や活動の報告を行った。			

<p>特別活動・人権教育の充実</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>① 行事や部活動を通して連帯感や奉仕の精神に基づく実践的社会的な育成</p> <p>② 豊かな人権感覚を持った調和のとれた人間性と自主共同の精神をかん養</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 不登校傾向の生徒の学びの場の保障</p>	<p>評価指標</p> <p>① 生徒会活動や部活動で役割や責任を果たすことで、生徒会や部の一員としての意識を高め、支え合いながら、よりよい人間関係を築く。部活動加入率 60%以上。</p> <p>② 人権学習HRを各学年6回実施</p> <p>活動計画</p> <p>① 本人の希望を聞き、家庭訪問時の授業プリントの持参や別室登校の措置をとる。スクールカウンセラーや校外の相談機関、医療機関等と連携をとり、学年会、教育相談課会等で共通理解を図る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 自発的な生徒会活動、部活動による個性の伸長が見られた。役割や責任を認識し、生徒会や部の一員としての自覚を高め、よりよい人間関係を深めながら、活発化してきている。部活動加入率 75%。</p> <p>② 人権学習HRは人権問題意見発表会を含め6回実施。11月には町学人研の研究授業・研究協議会を校内で実施。「本校の人権教育は充実している。」教員80.0%、生徒75.7%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 学年会等で不登校傾向の生徒の現状や対応への共通理解を図り、家庭訪問や保護者との面談等で本人の希望を聞きスクールカウンセラーと連携して対応した。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>A</p> <p>(所見) 評価指標上の目標値は、ほぼ達成できた。</p> <p>教育相談については、生徒への支援活動と職員間の情報交換、職員研修により共通理解を図った。</p>	<p>① 部活動も活発になり成績もよくなってきており、その辺の評価が、入学希望者増につながっていると思う。</p> <p>② 人権教育の充実が著しくすばらしいと考える。</p> <p>① 教育相談が必要な生徒には、教員間の共通理解が必要です。</p>	<p>○ 地域との連携による様々な活動をととして、人とのつながりを大切にする心と広く社会に貢献できる力を育成していく。</p> <p>○ 正しい人権意識の醸成を図るための自主活動を育成していく。</p> <p>○ 保護者・地域・関係機関との連携を強化する。</p>
<p>広報の充実ならびに地域への貢献</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>① 日々の活動の成果を地域や保護者に知ってもらうためのHPの充実</p> <p>② 地域に愛着を持ち、様々な課題の解決に立ち向かう実践力を育成するため、清掃活動や「お接待」などのボランティア活動に積極的に参加</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 学校案内の内容を最新のものに改定し、魅力ある紙面を通じて、中学生の進路選択の参考にしてもらう。近隣中学校への配布・説明 100%</p> <p>①-2 HPの更新をこまめに行い、新着情報を充実させる。更新回数 年100回</p> <p>② 通学路清掃奉仕(各学期1回)や「お接待」などのボランティアへの参加、地域の行事への参加を募り、その様子を広報する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 学校案内の内容を最新のものに改定し、魅力ある紙面を通じて、中学生の進路選択の参考にしてもらう。近隣中学校への配布・説明 100%</p> <p>①-2 今日あった学校行事は、今日中にHPの更新を行うことができる。更新回数300回</p> <p>② 地域研修として、道の駅「いたの」の防災施設を見学し、防災意識を高めた。通学路清掃奉仕は12月に実施。1学期は熱中症予防のため中止にした。「お接待」は5月と11月に第3番礼所「金泉寺」で2回実施。2回目は徳島新聞社が取材に来てくれ、11月16日の紙面で紹介された。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>A</p> <p>(所見) HPは連絡・学校紹介機能や部活動、発行物などを更新した。</p> <p>「地域へ奉仕する清掃活動などのボランティア活動は充実している。」 教員74.3%、生徒74.4%両者とも肯定的に捉えている。</p>	<p>① 中学生に支持されるよう、写真の選定やレイアウトに取り組んでいる。</p> <p>①-2 HPの更新率は非常に高い。</p> <p>② 「お接待」などの地域の歴史を学びながら地域に根ざした活動を行うことの意義を感じた。</p>	<p>○ 今後も、紙面に変更を重ね、学校案内を充実させていく。</p> <p>○ 今後も、学校行事はその日のうちにHPIにアップできるようにしていく。</p> <p>○ 積極的な地域との関わりについて教職員一人一人の自覚を促し、多くの教職員が参加できるようにしていく。</p>
<p>働き方改革と人材育成の推進</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>① ICTの更なる活用</p> <p>② 学校及び教職員が担う業務の明確化・適正化</p> <p>③ 次世代を見据えた人材育成</p> <p>④ コンプライアンスの推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 勤務時間の客観的な把握の徹底により在校等時間の縮減を図る。 昨年度比 10%減</p> <p>①-2 さくら連絡網による学校からの連絡システム化。 生徒の登録率 100% 保護者の登録率 80%以上</p> <p>②-1 学校行事等の精選や内容、各会議の見直し、準備の簡素化等を行う。</p> <p>②-2 部活動の運営適正化により、生徒と向き合う時間を確保する。 平日3時間以内、休日4時間以内</p> <p>②-3 留守番電話の時間帯設定。 午後6時～午前7時30分</p> <p>③ 学年会の中で、徳島型メンター制度による若手教員の育成を行う。</p> <p>④ 要請研修を年1回、校内研修をコンプライアンス推進計画とおり実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 時間外勤務45時間以上 令和4年度 6月 11人 10月 11人 1月 6人 令和3年度 6月 11人 10月 10人 1月 7人</p> <p>①-2 さくら連絡網の登録率 生徒の登録率 98.5% 保護者の登録率 43.3%</p> <p>②-1 始業式・終業式、全校集会、生徒総会、生徒会役員改選、高校総体・高文祭激励会などの学校行事は、オンラインで実施。</p> <p>②-2 コロナ禍により、部活動は平日2時間程度、休日3時間程度を原則としている。</p> <p>②-3 働き方改革の一環として、留守番電話の時間帯を午後6時～午前7時30分に設定している。</p> <p>③ 普段の業務の中で、徳島型メンター制度により、先輩教員から若手教員へ指導助言を行っている。ミドルリーダー研修に3名の教員が1月に共同発表。</p> <p>④ 要請研修を5月に実施した。校内研修をコンプライアンス推進計画とおり実施。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <p>(所見) 保護者の登録率を上げるために三者面談時に登録を呼びかけていきたい。</p> <p>ICTを活用して、学校行事や会議を効率的に運営できるようにしていく。</p> <p>部活動の活動時間を明確にし、生徒に向き合う時間の確保ができた。</p> <p>留守番電話の時間帯設定で、勤務時間の縮減ができています。</p> <p>ミドルリーダー研修に3名の教員が共同発表は、若手教員の励みになっている。</p> <p>不祥事防止に向けて再確認し、信頼される学校・教職員をめざす研修にMetaMojiを利用して取り組んだ。</p>	<p>①-1 働き方改革を今後も推進してください。</p> <p>①-2 すべての生徒・保護者がつながる連絡網の確立が必要である。</p> <p>②-1 学校行事をオンライン化することで効率よく取り組んでいる。</p> <p>②-2 今後も部活動の活動時間を明確にしてほしい。</p> <p>②-3 今後も業務の明確化に取り組んでいる。</p> <p>③ 徳島型メンター制度は若手教員の育成に有効である。</p> <p>④ タブレットを活用することで、意欲的に研修に取り組める。</p>	<p>○ 常に、在校等時間をチェックし、勤務時間の削減に取り組んでいく。</p> <p>○ すべての生徒・保護者が登録できる方策を考えていく。</p> <p>○ 入退場の時間削減や表情がはっきり確認できるオンラインカを推奨していく。</p> <p>○ 決められた時間に集中して取り組めるようにしていく。</p> <p>○ 考査期間中や長期休業中の午後5時以降は留守番電話にする。</p> <p>○ 業務を通じての人材育成に取り組んでいく。</p> <p>○ 主体的に取り組める研修体制を検討していく。</p>

	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)			
新型コロナウイルス 感染防止対策	① 健康観察	①-1 発熱の有無だけでなく、のどの違和感など、少しでも体調に不安がある場合は、登校を控えさせる。	①-1 少しでも体調に不安がある場合は、登校を控えてもらった。	A	(所見) 朝のSHRで、紙媒体とclassiで毎日継続して体温測定・体調管理ができた。	① 紙媒体、または生徒端末を活用して、継続して体温測定・体調管理がきちんとできている。	
		①-2 健康観察表は紙媒体(各クラスレターケース)で配布、または、classiで毎日配信し、継続して体温測定・体調管理を行う。	①-2 教員・生徒とも健康観察は、紙媒体とclassiで毎日配信し、継続して体温測定・体調管理を行った。				
	② 環境衛生	②-1 常に廊下側と外側の窓を少し開けて空気が流れるように常時換気をする。	②-1 常に廊下側と外側の窓を少し開けて空気が流れるように常時換気をした。				教室に換気のマークを用意したり、職員朝礼で注意喚起に取り組んだ。
		②-2 情報発信、不織布マスク、手指消毒など基本的な感染防止対策をする。	②-2 マスクを忘れた場合はマスクを配布。すべての教室に手指消毒セットを設置した。				感染防止対策は十分できている。
③ 部活動	③-1 少しでも体調に不安がある場合は、部活動も控えさせる。また、同居の家族に体調不良の方がいる場合も練習を休むようにさせる。	③-1 少しでも体調に不安がある場合は、部活動も控えさせるように取り組んでいる。また、同居の家族に体調不良の方がいる場合も練習を休むようにさせた。	部活動の担当の先生方にもマニュアルを提示するなど、感染防止対策を徹底している。				
	③-2 部活動終了後は部員同士で飲食店で飲食をすることがないように、速やかに帰宅させる。	③-2 部活動終了後は部員同士で飲食店で飲食をすることがないように、注意喚起を怠らないようにした。	マスクを外しての飲食時が一番感染する確率が高いことを強調した。				
④ 学びの保障・継続	④ 学級閉鎖、臨時休業になった場合は、タブレットを有効に活用したオンラインでの学習活動が行えるように校内の推進体制の整備をする。	④ タブレットを有効に活用したオンラインでの学習活動が行える体制を整えた。	危機管理体制を怠らないよう取り組んだ。	③ 生徒に対する注意喚起を今後も行って欲しい。	○ 今後も健康管理の徹底を促していく。		
						○ 基本的な感染対策を呼びかけていく。	
						○ 今後もマスクを外しての飲食時が一番感染する確率が高いことを促していく。	
						○ オンライン体制の確認を頻繁に行っていく。	